

2023 年度 聖学院大学

公募制推薦入学試験 小論文 問題

問 次の文章は、大学進学を考えている高校生に向けて書かれたものです。以下の①と②について、あわせて 800 字以内で述べなさい。

- ① 著者は「良き答え」を追い求めるよりも、「良き問い」を立てる方が重要であると主張しています。著者がそう考える理由について説明しなさい。
- ② 「良き問い」を立てることについて、自分自身の実体験を踏まえながら、あなたの考えを述べなさい。

あなたはなぜ大学に進もうと考えているのでしょうか。他にも進路はあるのに。
高校を卒業したら就職する。フリーターになる。専門学校に行く。自分で会社をつくる、つまり起業する。海外に放浪の旅に出る。
実にいろんな可能性があるのに、大学に進学すれば、それ以外の道をいったんはあきらめることになります。

＜中略＞

人間が精神的に成長するには、それなりの環境と時間が必要です。4 年間あるいは大学院に行けば 6 年間、自分を見つめ直す時間が確保できる。これだけでも大学に行く価値はあるだろうと私は思っています。

＜中略＞

大学生は「生徒」ではありません。「学生」です。何が違うのか。
高校までは生徒でした。先生が間違いのないことを教えてくれ、あなたたちは、それをそのまま受け止めていればよかったからです。まさに「先生の徒（教え子）」です。

しかし、大学は違います。先生が教えていることは 100%間違いのないこと、とは言えないからです。先生の言うことを鵜呑みにせず、「本当かな」と自分の頭で考える。学生、まさに「自ら学ぶ者」なのです。

あなたが大学に進学したら、誇りを持って「私は学生です」と言いましょう。

＜中略＞

小中高校で「成績がいい」というのは、どんな児童生徒でしょうか。先生の質問を聞くと、すぐに先生が求めている答えを探って「良き答え」を出すタイプではないでしょうか。

こういう学校生活を送っていると、世の中には必ず「正解」があると思ってしまうようになります。

しかし、世の中には何が「正解」かわからないものは、いくらでもあります。

たとえば、少子高齢化が進む中で、限られた国の予算は、高齢者のために使うべきか、子育て世代の若い人のために使うべきか。

世の中をここまで築き上げてきた先輩たちの苦勞をねぎらうために、年金や医療費の面で高齢者を優遇するのは当然だという考え方もありますが、一方で、子育て世代を支援しなければ、子育てがしにくい社会となり、少子化は一段と進んでいくでしょう。さて、正解は何か。

簡単には答えが出てこないでしょう。世の中には「正解」が不明だったり、そもそも存在しなかったりすることがあるのです。

そうすると、「良き答え」を追い求めるのではなく、「良き問い」を立てる方が重要だということがわかるのではないのでしょうか。たとえば「高齢者も子育て世代も安心して暮らせる社会とはどういうものか」という問いを立てるのです。そこから解決策を求めて、人々の知の探究が始まります。「良き問い」を立ててこそ、世の中は良くなっていく可能性が開けるのです。

そこでまずは、「どの大学なら入れるか」という答えを探すのではなく、「大学で何を学ぶか」という問いを立てるところから始めてください。

池上彰, 自ら問いを立てること (新・大学でなにを学ぶか 上田紀行 編著), 岩波書店